



# 学校だより

平成29年6月2日(金)  
第763号  
さいたま市立日進小学校  
TEL: 663-6942

失敗を糧にするのも・・・

校長 並木 昌和

昨日、5年生が館岩自然の教室から帰ってきました。普段の教室では学ぶことのできないこと、自然の雄大さや素晴らしさに気づくこと、友達と力をあわせて成し遂げる経験、自分一人ではできないことでも周りの励ましやあたたかい声かけで勇気をもらい、成し遂げることができた爽快感、・・・この3日間で多くのことを学んできた5年生がこの経験をこれからの学校生活の中で生かしてくれることを期待したいと思います。

紫陽花の花が咲き始め、間もなく梅雨に入ります。

明治時代に日本に来て「大森貝塚」を発見したモース（アメリカの動物学者）が私たち日本人の美点（よいところ）を、

「自然への愛、あっさりとして魅力に富む芸術、挙動の礼儀正しさ、他人の感情についての思いやり、・・・」などと言っています。

言い換えると、草木をはじめとした自然を大切に、機能的で美しい絵や伝統的な彫刻などがあり、あいさつやお礼のことば、ごめんなさいといった謝罪のことばを素直に口にすることができること、人の嫌がることを言わない・やらない といった意味になるのでしょうか。また、あるテレビ番組では約束を守って行動していること、例えば並んでいても割り込みをしない、信号を守るといったことも、よい事だと伝えていました。私たちが当たり前だと思っていることを、改めて外国の方から褒められると少し心がくすぐったい思いがします。

6月は「いじめ撲滅月間」です。市内のどの学級でも子どもの発達段階に応じて、いじめをなくすためにどのようにしていこうかと話し合いがなされ、具体的な行動目標が決められることとなります。子どもたちが自分たちの目線でどのように考えていくのか大変興味深いものです。

何気ない一言で傷つく友達がいること、傷つけていることに気がつかないで過ごしてしまうことがあること、つらい思いは我慢する必要のないこと、誤りは素直に認めること等、子どもたちに重ねて伝えていきたいと思っています。

記憶が曖昧になっていますが・・・、小学校の時友達の家で母親に連れられて謝りにいったことがあります。一緒に遊んでいて何らかのトラブル（又はけがをさせた？）があったのだと思います。当時自分では何がいけなかったのかわからなかったのですが、客観的に大人目から見ると私がいけない事をしたのだと思います。母親が頭を下げて謝罪している姿を見るのは辛いものでしたが、再びこのような事をさせてはならないという気持ちになったものです。

人間は完璧ではありません。失敗もあります。意に反して相手の気分を害してしまうこともあります。子どもならなおさらです。事実は素直に認め、謝り、次にどうするかを考えて行動することが大切なことだと思います。将棋棋士で永世棋聖の称号を獲得している米長邦雄さんの言葉を借りれば、「過去とケンカをしても仕方がない」のです。

◇5年生が1日まで館岩自然の教室に行っていたため、2日の発行とさせていただきます。